名桜大学紀要14号　6-30(2009)

ライフヒストリー・インタビューを用いた学生の学びの分析
—個人の学びとグループワークの学びとの比較—

森田恵子，石川幸代，永田美和子

要旨

老年看護学においては、人生史を含めた高齢者理解に基づき看護を展開することが重要となる。ライフヒストリーインタビュー（以下LHI）を用いた教授方法の違いによる学生の学びを分析した。結果、学生個々の学びでは、【高齢者に対する知的理解】【高齢者に対する情緒的理解】【インタビュー学習の学び】【老年看護への関心】が抽出され、グループワークでの学びにおいては、【高齢者に対する知的理解】【高齢者に対する情緒的理解】【学習の深まり】【老年看護への関心】に分類され、LHI後に行なったグループワークは、多様な高齢者像を知る機会となり、高齢者理解を深めるために有効であった。しかし、日常生活の過ごし方、健康状態、不安等高齢者の現在の生活を理解するためにはLHI方法やグループワークの討議方法を改善する必要がある。

Analysis of Students Learning Based on Life History Interviews
−A Comparison between Individual and Group-work Learning−

Keiko Morita, Sachiyo Ishikawa, Miwako Nagata

ABSTRACT

In gerontological nursing, it is important to develop nursing interventions based on an understanding of geriatric patients including that gained from their life histories.

We analyzed students learning according to the differences in teaching methods employed, based on Life History Interviews LHI. The following individual learning were identified:

−Intellectual Understanding of Geriatric Patients
−Emotional Understanding of Geriatric Patients
−Study of Interview Learning
−Interest in Gerontological Nursing

For group-work similarly learning the results of the analysis were classified into:

−Intellectual Understanding of Geriatric Patients
−Emotional Understanding of Geriatric Patients
−In-Depth Understanding of Learning
−Interest in Gerontological Nursing

In the group-work after the LHI, elements such as the diversity of geriatric patients were found to be important for a deeper understanding of the patients. However, it seems necessary to improve the LHI method and the debate format in the group-work to understand the current life styles of geriatric patients their health and anxieties.

Ⅰ　はじめに

高齢者は過去の時間的蓄積や豊かな人生経験に裏づけられた個性的・個別性ある存在である。老年看護を実践・展開するためには、人生史を含め高齢者の訴えに傾聴し個別性を捉えた看護の展開が必要となる。しかし、全世帯に占める三世代同居率は9.1%（国民衛生の動向,2008）と減少を続け、現代の若者は高齢者と接する機会が減少し、高齢者をステレオタイプに捉え、かつ否定的なイメージ（小泉,1998）を高齢者に抱く傾向にある。

そこで高齢者理解を深めるためにLHIを実施し、その後LHIを持ち寄りグループワークを行なう方法を老年看護学概論において取り入れた。

LHIを用いた学習効果（田代,2007　古城,2002）については、高齢者が育った時代背景を理解できる効果があること、高齢者に対するイメージを肯定的に変化させること、学習者自身の生活を振り返る機会となること等の効果が報告されている。しかし、LHIを用いることにより得られた学生の学びと、その後に行なったグループワークでは、どのような学びの変化が見られたのか報告された研究は少ない。本研究では、LHIを実施し、その後に行なわれたグループワークでの学びにどのような変化が見られたのか、また高齢者理解が深められていたのか報告し、今後の教授方法についての検討を行なった。

Ⅱ　研究方法

1．研究目的

LHIによる学生個々の感想・学び、及びグループワークを通しての学び・感想を明らかにし、学習の深まりと老年看護学の教授方法について考察する。

2．方法

1）対象

老年看護学概論を履修した看護短期大学１年生88名中、学生の個々の学びについては同意が得られた72名を対象とし、その後に行ったグループワークについては88名の18グループ中、同意が得られた全グループを対象とした。

2）期間

2007年12月～2008年１月

3）分析方法

老年看護学概論開講時、65歳以上の高齢者１名を対象にLHIを実施すること、高齢者の疲労度に関する配慮や強制しない等インタビュー時の注意点について説明を行なった。LHI終了後、各個人で提出された「このインタビューからあなたが学んだことや感想」の項目より抽出された記述内容を主語・述語からなる一文章を１記録単位（以下コード）とし、内容の同質性、異質性に従いカテゴリ化をした。カテゴリ化については繰り返し検討した。

講義の中間にLHIを各自が持ち寄り、高齢者の共通性や異なる点について討議を行なった。グループワーク終了後レポートより「グループワークを通しての学びや感想」の項目から抽出されたコードを同様に内容の同質性、異質性に従いカテゴリ化をした。

4）用語の定義

LHI：誕生からの現在を含む生活史及び現在の価値観も含めてインタビューすること。

【倫理的配慮】

各個人に対し、研究の目的、個人情報の保護、研究協力が学業成績に影響がないこと等を口頭・文書で説明し、同意書を得た。グループワークの記録に関しても、研究の目的、個人情報の保護等を口頭・文書で説明し、なおかつグループ内で１名でも同意が得られなかった場合は、研究を辞退することができることについても説明を行ったが、全グループより同意が得られた。

Ⅲ　結果

72名学生中、親族以外にインタビューを行なった学生は１名であった。同意・協力の得られた72名の学生の個々の学びのコード数は175であったが、意味を成さない４コードは除外し171コードをデータとして用いた。

学生個々の学びをカテゴリ化した結果、表１のように４つのカテゴリ（以下【　】内）と20のサブカテゴリ（以下〔　〕内）が抽出された。

【高齢者に対する知的理解】は最も多い80コード（46.8%）であり、９つのサブカテゴリが抽出された。〔時代背景や過去の生活体験の理解〕では、「昔は物が無く、戦後は日本中が貧乏で現在の豊かな生活からは想像がつかないような貧困な生活を送っていたそうです。」「自分の欲は我慢し、家業を頑張ってきた事が分かりました。」等の記述があり、最も多い60のコードであった。〔生きがいとその重要性〕では、「作ったものをいろんな人にプレゼントして喜ばれたり、施設内の新聞に載ったり作品展に出したりと、得意なことがあれば年をとっても夢をもって生きがいになって、活力にもなるのだと思った。」「今回のインタビューを通して、分かった事は経験や想いが心の支えとなり、ずっと心の中に生き続けるということ、大切なものが何か一つでもあれば、どんな辛いことでも乗り越えていけると思った。」等の５コードであった。他に〔人生の複雑さ〕〔過去との時間的な連続性〕等のサブカテゴリが抽出された。

【高齢者に対する情緒的理解】は、74コード（43.3%）と次に多く、〔過去の体験に基づく高齢者に対する尊敬・尊重〕では、「私の歳にはもう働いて家を助けていたのですから、祖母に頭が上がらないなあと思いました。」「改めて叔父の歴史を聞き、日本が一番大変な時代に生まれ育ち、若い頃から家族を支えてきた人なので尊敬する気持ちを持ちました。」等32コード、〔親族としての共感〕では、「今回、インタビューを通して、普段はあまり聞かないことやおじいちゃんの人生感についても知ることができたし、なによりも久しぶりにおじいちゃんとたくさん話すことができて良かったと思います。」「頑固な祖父に振り回されたりと、苦労が多かったようですので、看護師になり祖父母の意思を継いでくれるような主人を見つけ、曾孫を産んで安心させてあげたい。」等25コード、〔戦争の怖さ〕では、「戦争の事も途中話してくれ、とても残酷で恐くなりました。」等４コードの記述があった。

〔自己の生活や自分自身への振り返り〕では、「環境なども全然違い、厳しい中で育った高齢者とは考え方なども違ってきてしまうのは仕方ない事だと思ったけど、話を聞いていると、今の時代は便利になりすぎているので、大切なことを見失わないようにしなければならないと感じました。」「お年寄りは、耳が遠くなったり、心配性になったりするのは、きっと普通のことなのにどうして自分は受け入れてあげることが出来なかったのだろうと恥ずかしくなった。」

等４コード、〔生きることの困難さ〕では、「初めておじいちゃんの人生について聞いてみて、86年という長い間生きているといろんな事があるんだと思いました。」等３コードの記述が見られた。他に〔生きぬく強さに関する尊敬〕〔過去の辛い体験への理解〕が抽出された。

【インタビュー学習の学び】の〔インタビューの難しさ〕では、「本当は仕事オンリーと言っていたけど、家族（息子さん）はそんなことはないと言っていて、どっちが本当なんだろうと思った。」等５コード、〔インタビューによる相互作用〕では、「老年期になると自分の時間が増えるので習い事をしたり、趣味に時間を使ったりしてとても楽しそうに元気で暮らしているので、若い私たちがパワーを与えるのではなく、逆に元気な祖母からパワーをもらった気がした。」等５コードの記述がみられた。

【老年看護への関心】では、〔講義への関心〕では、「このインタビューも活かして、これからの老年の講義をもっと深く学んでいきたいと思います。」、〔高齢者へ興味・関心〕では、「高齢者だから以前の日本の状況や生活をもっと色々聞きたいなと興味が出てきました。」等６コードの記述が見られた。

グループの学びのコード数は32であり、カテゴリ化した結果、表２のように４つのカテゴリと10のサブカテゴリが抽出された。

【高齢者に対する情緒的理解】は最も多い11コード（34.3%）であり、３つのサブカテゴリが抽出された。〔高齢者への尊敬・尊重〕では、「戦後の日本を支えてきたいことをひけらかすことなく、見返りを求めない謙虚さに人間の大きさを感じた気がします。」「高齢者の生き方を知ったことで、改めて感謝の気持ちを抱けたので良い機会となりました。」等の最も多い６のコードであった。〔自己の生活への振り返り〕では、「今の時代に生まれた私たちは幸せなんだと強く感じました。」等の３コードであった。他に〔戦争の怖さ〕では、「戦争ってやっぱり良いことなんて一つも無いんだなと改めて感じた。」等の記述が見られた。

【学習の深まり】は、11コード（34.3%）と次に多く、〔様々な考えに対する気付き〕では、「高齢者の事について話し合うことができ、高齢者の事が理解できた。」等４コード、〔ディスカッションテーマについての振り返り〕の４コードでは、「みんなのインタビューを見てみて、みんな同じ体験をしてきたんだなあって思った。」等の記述があった。

〔高齢者の多様な姿〕では、「私達の生活と比べて高齢者の生活は貧富の差によって食事や学校に行けるか行けないなど大きな差があるのだと思った。」「いろんな世代の人たちの時代背景が知れて良かった。」等３コードの記述が見られた。

【高齢者に対する知的理解】は８コード（25%）であり、〔時代背景や過去の体験の理解〕では、「高齢者はそれぞれ違う環境の中で、苦労してきたんだと思った。」「昔は、貧しい生活を送っている人たちが多かっただなあと思いました。」等５コードの記述が見られたた。〔人生の充実感・価値観〕では、「どの高齢者もそれぞれたくさんの経験し、苦労を重ねてきたけど、今は充実しているのだと思った。」等３コードの記述がみられた。他に〔たくましい生き方〕が抽出された。

【老年看護への関心】では、〔高齢者へ興味・関心〕では、「この課題のことを聞くと、それだけで楽しそうにするのを見ると、今までもっと聞けば良かったと思った。」の２コードが見られた。

Ⅳ　考察

LHIによる学生個々の感想・学び、及びグループワークを通しての学び・観想の分析結果より、学びの内容を考察した。

戦争体験を含む明治・大正・昭和という激動の時代を生き抜いてきた高齢者の過去の生活や体験は、現代の若者にとっては想像も出来ない体験内容であり、非常に印象深く有意義な学習であった。高齢者が語る過去の経験は、豊かな時代に誕生した現代の若者にとっては高齢者に対し、ジェネレーション・ギャップを抱くことにも繋がりかねない。中西（2001）は、大人達の世界と青少年の世界が文化的・心理的に隔離され棲み分けされておおり、同世代間関係を横糸とすれば、異世代が入り交じる縦糸の関係がとてもか細く弱いと世代間のギャップを指摘している。

本研究では、インタビュー対象者の大多数が親族であったことから、【高齢者に対する情緒的理解】〔親族としての共感〕を基本にしながら学生は、高齢者の〔時代背景や過去の生活体験の理解〕〔生きがいとその重要性〕〔人生の複雑さ〕〔過去との時間的な連続性〕等高齢者に対する共感的で知的な理解を示したものと考えられる。

また、LHIによる高齢者理解の学習により、高齢者が過去の時間的蓄積を重ねた存在であり、尊敬や尊重される存在であることを学生は学んでおり、高齢者看護における基本を学習している。高齢者に対する尊敬・尊重等、共感的に高齢者理解をすることは、人間を対象としケアを実践する看護職者には重要であり、親族を対象としたことでLHIを通し高齢者を情緒的に肯定的に捉え、高齢者が尊敬や尊厳される存在であることを学習したものと考えられる。

さらに、高齢者に対する知的理解や情緒的理解が促されてことにより、学生個々やグループ内で高齢者や老年看護学に対する興味・関心が引き起こされたものと考えられるが、老年看護学実習においても高齢者を肯定的に捉えこの興味・関心を持ち続けられるようにすることが教育的関わりとして求められる。浅井（2006）は４年間の高齢者に対するイメージの変化を研究し、変化するイメージと変化しないイメージについて報告しているが、学生が老年看護学への興味・関心が継続できるよう臨地実習でのカンファレンス等討議が深められように関わる事も今後重要になると思われる。

祖父母など身近な高齢者を選択しインタビューすることは、高齢者を肯定的に捉えることやポジティブイメージを持つことに有効（寺門,2002）であるとされているが、高齢者理解をする上では、親族以外の高齢者のインタビューにおいては、どのような情緒的理解を示すのかについては今後の課題である。

小泉（1998）は「LHIは高齢者個人をより深く学習する学習手段」であると述べているが、この個々の学びを基にグループワークを行なうことで、高齢者個人の学びから高齢者の多様な姿や人生の充実感や価値観などをグループ全員の知識として学習している。高齢者との直接的な交流が減少している学生は、LHIを対象とした高齢者のみを高齢者像として理解することにも繋がりかねない。老いの理解を深めるためには、ステレオタイプ的な価値観や想像に基づいた理解から、学習した知識を活用し、高齢者の実像から老いを理解することが（浅井,2006）重要であり、ディスカッションを通して多くの事例を触れたことにより、高齢者がそれぞれ異なる環境の中で戦争等時代を生き抜いた存在であることを知的理解基盤とし、高齢者が尊敬・

尊重される存在であることを学習したと思われる。

また、LHIを用いてグループワークを行なったことの有効性については、多くの事例や考えに触れる重要性を学生自身が認識していることが示唆された。臨地実習や臨床の看護場面においても、看護職は多職種と連携しながらディスカッションをし、看護の質を向上することが必要となる。LHIを用いグループワークを行なったことは、学習内容を共有する重要性を学生自身で認識する契機になったものと思われる。また、河津（2001）は、ひとりひとりの生活世界を縦断的に描くLHIをより多くを収集することにより、横断的な類型化の学習機会となることを指摘しているが、グループワークは学生個々の直接的収集ではなく間接的な収集の機会となり、高齢者への尊厳や尊敬について共有する機会となったことも考えられる。しかし、高齢者が多様な存在であり、個別性がより大きく存在するという視点にまではグループワークで討議が十分深められていないことも示唆された。今後はグループワークの方法及び教師に関わりについて検討する必要がある。

更にLHIを通して学生個々が抱いた自己の生活への振り返りは、LHIの事例をディスカッションする経験の中で、グループの中でも討議され自分達の生活を振り返る機会となっている。人間関係は相互に作用し、学生にも自己の有り様についての振り返りが成され、この振り返りがグループ内で共有されたことは大変意義深い。看護は人間理解を基本にし実践をする行為であり、このためにはまず自分自身を認識することも必要である。この点において、自己を振り返る機会が得られたことは重要であると考える。

しかし、学生個々の学び及びグループワークを通しての学び・感想に共通して学生に認識されていないのは、日常生活の過ごし方や老年期に抱える老いへの不安、健康不安等現在の生活についての認識である。老年期は身体的老いに適応しながら生活をすることは、老年期における発達課題である。肯定的に高齢者を捉えること事は重要ではあるが、看護職は高齢者を身体的・精神的・社会的に支えることが求められ、老年期の老いへの不安や健康不安を捉えることも重要である。

今回のLHIのインタビュー内容の項目に不安に関する内容を特に設けなかったこと、インタビュー対象者が親族であるために、心配をさせたくないという思いから高齢者が不安についてはインタビュー時に語らなかったことが考えられる。また、高齢者の過去の経験が現在の高齢者のあり方にどのように影響を与えているのか、現在の高齢者の生活や価値、健康状態などについてまでは討議が十分なされていないことは、LHIのあり方やグループワークの検討の必要性について示唆された。今後はLHIの内容の検討を加え、老いや健康不安を抱えながらも人生を統合的にとらえ生活する高齢者の存在を理解できるよう、グループワークの討議内容や教師の関わり方についても検討する必要がある。

V　結論

LHIによる学生個々の感想・学び、及びグループワークを通しての学び・感想を分析することにより、以下の結論が得られた。

1．LHIは個々の高齢者を理解する方法として有効であり、その後にILHを用いたグループワークは高齢者理解を深め、老年看護への興味・関心を養う効果がある。

2．高齢者の現在の高齢者の生活や価値、健康状態との関連性などを学習するためには、LHI方法の検討が必要である。

3．討議を深め、高齢者の個別性について捉えられるようグループワークの方法についての検討や教師の関わり方が重要となる。

おわりに

今後は、LHI内容やグループワーク学習、教師の教育的関わりについて検討を重ねていきたい。

快くインタビューにご協力を頂いた高齢者の方々、及び本研究に協力頂いた学生に深く感謝いたします。

引用・参考文献

財団法人厚生統計協会，『厚生の指標　国民衛生の動向』,2008.

小泉美佐子・伊藤まゆみ著「ライフヒストリーインタビューによる看護学生の高齢者イメージの変化－高齢者と一般のイメージとインタビューに応じた高齢者の比較から－」，群馬保健学紀要，第19号，pp31-36，1998.

田代和子・櫻井美代子著「高齢者のライフヒストリーインタビューの学習効果－５年間の経年的変化から－」日本老年看護学会第12回学術集会，p81，2007.

古城幸子・木下香織著「老年看護学の授業における学生の高齢者イメージの変化　第１報老年看護学Ⅰの授業評価」，新見公立短期大学紀要，第23巻，pp53-60，1998.

中西新太郎「思春期に危機を生きる子どもたち」，はるか書房，2001.

浅井さおり・沼本教子他著「老年看護学学習過程における学生の高齢者イメージ変化の比較」，日本看護学学会誌，第16巻１号，p59，2006.

寺門とも子・大塚邦子他著「高齢者理解のための効果的な学習方法－看護学生の個人史インタビューによる人生観・健康観の学び－」，老年看護学，第17巻１号，pp31-36，2002.

河津芳子著「看護学とライフヒストリー」，看護学雑誌，第65巻７号，p635,2001.

表１　学生個々の学びのカテゴリと主な内容

N=171

カテゴリ	サブカテゴリ	コード数	主な内容
高齢者に対する知的理解	時代背景や過去の生活体験の理解	60	おばあちゃんは畑仕事より、裁縫学校に通わせたいというお母さんの思いがあったらしく、学校に通えたけど、めずらしいと言っていました。
			昔は物が無く、戦後は日本中が貧乏で現在の豊かな生活からは想像がつかないような貧困な生活を送っていたそうです。
			自分の欲は我慢し、家業を頑張ってきた事が分かりました。
	生きがいとその重要性	5	作ったものをいろんな人にプレゼントして喜ばれたり、施設内の新聞に載ったり作品展に出したりと、得意なことがあれば年をとっても夢をもって生きがいになって、活力にもなるのだと思った。
			今回のインタビューを通して、分かった事は経験や想いが心の支えとなり、ずっと心の中に生き続けるということ、大切なものが何か一つでもあれば、どんな辛いことでも乗り越えていけると思った。
	人生の複雑さ	3	過去の話をしている時は、楽しそうであったり、悲しそうでもあり、いろいろな表情になりながら話していて、人生はいろんなことがあると思った。
			人生は波乱万丈だと思いました。
	過去との時間的な連続性	2	昔、裁縫学校に通ったお陰で歳をとってから内職を始める事が出来たと思うので、つながっていて良いことだと思いました。
			激しい時間を生きてきたけれど、今は牛や野菜などを育てたり、祖父と旅行に行ったりとのんびりした時間を過ごしていて、大変さなことがあったから今の時間があるんだと学びました。
	時間的な蓄積と時間の大切さ	2	私と同年代の人たちよりも高齢者の方の方が一日をとても大切にしているのではないかと気づきました。
	人間関係形成の特徴	2	対人関係の付き合い方が、世間で地位のある人、資産を持っている人等、理想的な対人関係ではなく、現実的対人関係を形成している事がわかった。
			人との関わりを大切にしていたので、今も祖父の周りには友達が多いんだと思った。
	家族の重要性	2	自分の息子に借金返済を手伝わせたり、私の進路を勝手に決めたりして、嫌いだったが、意外と家族を大切にしていることが分かった。
			生きてきた時代は違っているけれど、家族を大切に思っている面ではどの時代も同じだと思いました。
	生理的特徴	2	昔の記憶がとてもはっきりしていました。
			いくつになっても男なんだなあと実感しました。
	価値観や好みへの理解	2	子どもの頃から農家で育ってきたので、食べ物だけではなく、服やお金に関しても無駄の無いように使い、大切にしているのだろうと思いました。
			過去と現在では食べ物が変わってきているけれど、好みは変わっていないのが以外だった。食べ物が増えればそれだけ変化していくものだと思っていた。
高齢者に対する情緒的理解	過去の体験に基づく高齢者に対する尊敬・尊重	32	私の歳にはもう働いて家を助けていたのですから、祖母に頭が上がらないなあと思いました。
			改めて叔父の歴史を聞き、日本が一番大変な時代に生まれ育ち、若い頃から家族を支えてきた人なので尊敬する気持ちを持ちました。
			以前に母から叔父が仕送りをしてくれたのでお陰で高校を卒業できたのだと聞いていたので改めて私も感謝したいと思いました。
	親族としての共感	25	今回、インタビューを通して、普段はあまり聞かないことやおじいちゃんの人生感についても知ることができたし、なによりも久しぶりにおじいちゃんとたくさん話すことができて良かったと思います。
			頑固な祖父に振り回されたりと、苦労が多かったようですので、看護師になり祖父母の意思を継いでくれるような主人を見つけ、曾孫を産んで安心させてあげたい。
	戦争の怖さ	4	戦争の事も途中話してくれ、とても残酷で恐くなりました。
			戦争中に生きてきた人に話しを聞く事は、少し気が重くなってしまう。
	自己の生活や自分自身への振り返り	4	環境なども全然違い、厳しい中で育った高齢者とは考え方なども違ってきてしまうのは仕方ない事だと思ったけど、話を聞いていると、今の時代は便利になりすぎているので、大切なことを見失わないようにしなければならないと感じました。
			お年寄りは、耳が遠くなったり、心配性になったりするのは、きっと普通のことなのにどうして自分は受け入れてあげることが出来なかったのだろうと恥ずかしくなった。
	生きることの困難さ	3	初めておじいちゃんの人生について聞いてみて、86年という長い間生きているといろんな事があるんだと思いました。
	生きぬく強さに関する尊敬	3	この方は本当に幼い頃から体を壊すまで働きづめだったし、体を壊してもなお自分の力で排泄だったり、リハビリに進んで行なう姿は人間として尊敬できるし、私の高齢者のイメージこの方は全く違っていたので何歳になっても頑張ることや努力することはできるのだと感じました。
			小さい頃から苦労してきて、家族と離れ離れになりながらも、自分の好きなことをしていこうと前向きに過ごしていて、今を大切にしているところがすごいと思った。
	過去の辛い体験への理解	3	戦争のあたりで少し話しづらそうにしていたので、何か悲しいことがあったかもしれないが、特に触れなかった。やはり辛いことがあったのだろう。
			とてもつらい生活だと思った。
インタビューの学び	インタビューの難しさ	5	本当は仕事オンリーと言っていたけど、家族（息子さん）はそんなことはないと言っていて、どっちが本当なんだろうと思った。
学習	インタビューによる相互作用	5	老年期になると自分の時間が増えるので習い事をしたり、趣味に時間を使ったりしてとても楽しそうに元気で暮らしているので、若い私たちがパワーを与えるのではなく、逆に元気な祖母からパワーをもらった気がした。
老年看護への関心	講義への関心	1	このインタビューも活かして、これからの老年の講義をもっと深く学んでいきたいと思います。
	高齢者へ興味・関心	6	高齢者だから以前の日本の状況や生活をもっと色々聞きたいなと興味が出てきました。

表2　グループワークを通しての感想・意見のカテゴリ及び内容

N=32

カテゴリ	サブカテゴリ	コード数	主な内容
高齢者に対する情緒的理解	高齢者への尊敬・尊重	6	高齢者はとても元気でずっと大切にしていきたいと思いました。
			戦後の日本を支えてきたいことをひけらかすことなく、見返りを求めない謙虚さに人間の大きさを感じた気がします。
			高齢者の生き方を知ったことで、改めて感謝の気持ちを抱けたので良い機会となりました。
			今の生活があるのも高齢者の方たちの苦労があってのこと
			今まで聞いたことがなかった若い頃の話を聞いて（武勇伝やおもしろい話等）見る目が変わったような気がする。
			これからも高齢者からたくさんのもを得て大切にしたい思う。
	自己の生活への振り返り	3	今の時代に生まれた私たちは幸せなんだと強く感じました。
			今では、当たり前になっていることを高齢者は大切にしていて、見習わなければいけないと思った。
			現代人はものも何でもあり、苦労が少ない時代なのに、自殺したり殺人したりする人が増え、おかしい世の中に変化してしまったと思う。
	戦争の怖さ	2	戦争は怖いなと思った
			戦争ってやっぱり良いことなんて一つも無いんだなと改めて感じた。
学習の深まり	様々な考えに対する気付き	4	グループワークでたくさんの意見を聞き、色々な考えがあると思った。
			皆と交流をもつには一番いいやり方がグループワークだと思いました。
			高齢者の事について話し合うことができ、高齢者の事が理解できた。
			他人のためになにができたかという時の話し合いはみんなすごく納得できたし、とてもいい話し合いになれて良かったと思います。
	ディスカッションテーマについての振り返り	4	インタビューした相手が同じではないのでまとめるのがむずかしかった。
			比較的、共通点が多く早くまとめられた。
			以外と共通している点が多く、共通していない点が少なかった。
			みんなのインタビューを見てみて、みんな同じ体験をしてきたんだなあって思った。
	高齢者の多様な姿	3	いろんな世代の人たちの時代背景が知れて良かった。
			同じ群馬でも生活が全然違うなと思います。
			私達の生活と比べて高齢者の生活は貧富の差によって食事や学校に行けるか行けないなど大きな差があるのだと思った。
高齢者に対する知的理解	時代背景や過去の体験の理解	4	昔は、貧しい生活を送っている人たちが多かっただなあと思いました。
			高齢者はそれぞれ違う環境の中で、苦労してきたんだと思った。
			毎日、食べ物に困っていたり、危険がすぐそこまでに常に迫っている事に不安を感じ続けながら生活していた事がすごいなと思った。
			今の私たちには想像もつかない生活だと思った。
	人生の充実感・価値観	3	どの高齢者もそれぞれたくさんの経験し、苦労を重ねてきたけど、今は充実しているのだと思った。
			昔、苦労した分ぜいたくしたくなるように感じる
			高齢者は私達よりも人に対する思いが強いのだと思った。
	たくましい生き方	1	高齢者が子供の頃は、現在のように物がなんでもあったり、食べ物が多くなかった時代なのに、現代人よりも強くたくましく生きていた気がする。
老年看護への関心	高齢者へ興味・関心	2	この課題のことを聞くと、それだけで楽しそうにするのを見ると、今までもっと聞けば良かったと思った。
			もっとおじいちゃん達とお話してみたいと思いました。